

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	音楽劇
----	----	----	-----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	C区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	4企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	さかいしていおぺら いっばんしゃだんほうじん		団体ウェブサイトURL
	堺シティオペラ 一般社団法人		https://sakai-city-opera.jp/
代表者職・氏名	代表理事(会長) 葛村和正		
制作団体所在地	〒 591-8037	最寄り駅(バス停)	JR百舌鳥駅
	大阪府堺市北区百舌鳥赤畑町4-256		
電話番号	072-254-1151		
ふりがな 公演団体名	さかいしていおぺら いっばんしゃだんほうじん		団体ウェブサイトURL
	堺シティオペラ 一般社団法人		https://sakai-city-opera.jp/
代表者職・氏名	代表理事(会長) 葛村和正		
公演団体所在地	〒 591-8037	最寄り駅(バス停)	JR百舌鳥駅
	大阪府堺市北区百舌鳥赤畑町4-256		
制作団体 設立年月	1978年4月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事(会長) 葛村和正 代表理事(理事長) 坂口茉莉 副理事長 榎貴志 理事 7名		代表理事2、副理事長1、理事9、監事2、評議員24、一般会員336
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	農澤明大
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	小林敦子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	office@sakai-city-opera.jp		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>1978年 市民オペラとして活動を開始 1986年 堺市民オペラ協会発足。以後毎年オペラ定期公演を上演 1989年 堺シティオペラと改称 1995年 ドイツのケム ニッツ歌劇場と『魔笛』を共同制作し、堺とケムニッツの2カ所で公演 2006年 イタリア プッチーニフェスティバル(共同公演) プッチーニ作曲『蝶々夫人』 日本の音楽団体として初めての参加 2009年 社会的な信用を更に深め責任ある団体としてオペラを通じ、音楽芸術の普及・向上を はかり地域の芸術文化発展に寄与していくことを目標にかかげて法律に準拠した 非営利の法人格を取得 2013年 オーストリア ウィーン公演(共同公演)「日本のオペラ&狂言コンサート」 林 光 作曲『おこんじょうり』 2019年 オーストリア 日本・ウィーン国交150周年記念コンサート Juhu 2019年 第34回定期公演「アイダ」大阪文化祭賞受賞 2021年 il Teatro L'alba L'amore「トウーランドット」大阪文化祭賞受賞</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>文化庁巡回公演事業 2020年度(巡回公演 6公演)、2021年度(巡回公演 9公演)、2022年度(巡回公演13公演) 2023年度(巡回公演7公演)、2024年度(巡回公演2演目、26公演) 堺市文化振興財団 さかいミーツアート事業 2019年度(3公演)、2020年度(3公演)、2021年度(2公演) 2022年度(2公演+ワークショップ5回)、2023年度(1公演+ワークショップ1回) 堺市文化振興財団 さかいアートスクール事業 2016年度(1公演)、2017年度(1公演)、2018年度(3公演) 堺市舞台芸術体験による被災地支援事業 2016年度(3公演)、2017年度(3公演) 小学校芸術鑑賞オペラ 2015年度(1公演)、2017年度(1公演)、2018年度(1公演)、2019年度(2公演)</p>			
<p>特別支援学校等 における公演実績</p>	<p>2023年度(青森県立浪岡養護学校)巡回公演2公演</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/-40LDViCU94?si=st_Rv4qAbdOESMRk</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

別添	なし			
公演・ワークショップの内容		【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人】		
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	『オペラと歌物語の世界で見つける大切なもの』 ～堺シティオペラオリジナルVer.～			
企画のねらい	オペラは複数分野の芸術が混在して創造される総合芸術であり、一度に様々な芸術に触れる事が出来る芸術媒介です。本演目はオペラのみならず歌による物語を取り上げることで、オペラへの入口として子どもたちの興味や関心を誘導するための企画です。プロの歌手、器楽奏者、スタッフで作上げるステージを子どもたちが身近なものとして自身の感覚で体験し、捉えてもらいます。また、これらの2作品はシンプルな舞台装置で物語の進行が人間の声の魅力により美しく強いものとして理解することも助けます。そして生のオペラ公演を目の当たりにすることで、芸術に携わる様々な仕事の存在を知ることができます。オペラの世界への一歩目を踏み出していただくための公演とします。			
演目概要・演目選択理由	オペラは音楽、文学(台本)、演劇(演出)、美術(舞台美術や衣装)、舞踏など複数の分野の芸術が一度に味わってもらえる総合芸術ですが、オペラに対して人々が持っている敷居の高さが邪魔をして、なかなか社会に浸透する事が出来ません。本演目を取り上げた2作品は、シンプルないかどくじらの純粋な友情の尊さを描くことで子どもたちの情操にタッチして友情の大切さを認識してもらえらること。また一方、携帯電話の普及によって失われがちな人間の心の繋がりがや真の友情、愛情など、忘れ去られそうな大切なものを再認識してもらい、オペラを愛せる世代の育成を目標とします。			
児童・生徒の参加又は体験の形態	児童・生徒の体験への参加においては難しい演技や歌唱を求められる事はなく、ワークショップを通して歌い方を覚えていただき、その後成果を発表していただきます。公演直前には鑑賞しているだけでなく子どもたちの、鑑賞席で参加できるように、簡単な歌唱と演技の指導を公演に先立って行います。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	～665名程度	
		鑑賞人数目安	～665名程度	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	オペラ『電話』全1幕(日本語上演) 脚本・作曲:ジャン・カルロ・メノッティ 演出:坂口茉里 『恋するくじら』 作曲:平田あゆみ 原作:工藤直子 『電話』は、1947年にアメリカの作曲家メノッティが作曲した全1幕のオペラであり、ソプラノのルーシーとバリトンのベンが出演し、30分程度の時間で作られています。内容は、ベンがルーシーにプロポーズにやっ来て来ますが、ルーシーは電話で忙しく日々の楽しみやグチを友人に告げています。結局自分の意思を伝えられなかったベンはやはり電話で本心を伝えるという、日常にも起こりうる出来事をオペラにしています。会話の部分にご当地の名所や産物なども入れて親しみやすく、興味あるものとしてアプローチします。 日本語による歌物語『恋するくじら』は二人の歌手で演唱される作品で文明の影響を直接に受けない海中での心温まる、くじらといのかの友情で幕を閉じます。子どもたちの心に響く大切なものに訴えかけたいと思います。			
出演者	オペラ『電話』 ベン:西尾 岳史・奥村 哲 ルーシー:高嶋 優羽・李裕璃 ピアノ:森脇 涼 『恋するくじら』 いるか:松原 友・西影 星二 くじら:福嶋 勲・榎 貴志 ピアノ:森脇 涼			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	総合演出:坂口 茉里 当法人理事長・エグゼクティブプロデューサー。プロデュースしたオペラ『カルメン』『アイーダ』『トゥーランドット』が大坂文化祭賞受賞。海外での記念公演や初演公演も重ねている。 キャスト:榎 貴志 新国立劇場オペラ研修所第5期生修了。第37回イタリア声楽コンクール・ミラノ大賞。第27回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位および中田喜直賞受賞。当法人副理事長。海外での公演も行っている。 キャスト:高嶋 優羽 ローム・ミュージック・ファンデーション在外研究生としてNYにて研鑽。兵庫県立芸術文化センター2012年度ワシントンコンサートNo.1アーティストに選出され、アンコール・リサイタルを開催。メディアへの出演も重ねている。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 5 名 スタッフ: 9 名 合 計: 14 名	運搬	積載量: 2 t 車 長: 4.7 m 台 数: 1 台	

公演時間 50 分

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		2	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～11時	13:30～14:30	なし	15時～16時	16時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月
	15日	0日	0日	7日
	10月	11月	12月	1月
	20日	20日	20日	20日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)



※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	恋するくじら
	該当事項がある場合	権利者名 平田あゆみ	許諾確認状況	採択後手続き予定

別添	なし
----	----

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人 】

ワークショップのねらい	通常の学校音楽鑑賞教室などでは観客として公演を観て鑑賞することになり、受動的なコンサート体験になってしまいがちです。しかし、ワークショップでの実践的な経験を通して実際の公演に関わってもらいます。それにより、この公演に自ら積極的に携わっているという感覚を実感し、そのコンサート体験が子どもたちにとって能動的なものになることを狙います。プロの歌手や音楽スタッフと共に制作プロセスを体験し、交流することにより、このような職種がある事を認識してもらい将来のキャリアに対する視野を広げられることも目的とします。ワークショップ体験を通して異文化や自分と異なる考えやアイデンティティを受け入れられる心を育てる機会となることを望んでいます。		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	660名
ワークショップ実施形態及び内容	<p>音楽鑑賞・合唱指導:歌唱指導と演技指導。 歌唱指導にフォーカスしたワークショップ。 歌と演技による表現力を養います。また、人前に於いて、どれだけ自信を持ってプレゼンテーションを行うための所作を指導します。</p> <p>[標準 45分のワークショップの場合]</p> <p>①挨拶、団体紹介 ・体育館に集まった児童・生徒の前に司会を兼ねた歌手が登場し、スライドを用いて、挨拶と軽い団体の紹介をします。</p> <p>②オペラ制作に関するレクチャー ・続けて、総合芸術であるオペラとは何かの説明を行います。その際に、裏方やオーケストラの存在も伝え、演奏者だけではなく、舞台スタッフ、照明スタッフ、衣装スタッフ、演出部、音楽スタッフ、音響、ホールスタッフなど、数多くの裏方スタッフが関わることによって華々しい舞台が作られることを伝えます。</p> <p>③プロのオペラ歌手による演奏(鑑賞)2曲程度 ・実際にオペラ歌手による歌唱を鑑賞する。マイクを通さずに体育館いっばいに響き渡るベルカント唱法による歌声を目の前で聴くことにより、オペラ歌手が訓練をして身につけた技術を肌で感じていただきます。また、その際に声種によっての音の違いを伝え、実際に感じることで、自分はどうのような声の特徴を持っているのかを考え、個性を認める寛容さを身につけてもらいます。</p> <p>④器楽による演奏(鑑賞) ・歌だけではなく、オペラや声楽曲には必ず楽器による伴奏がつきます。その伴奏(本来はオーケストラ)に焦点を当て、オペラ歌手一人ではオペラは成り立たないということを伝えます。また、歌ではできないような技巧(ヴィルトゥオーゾ)的な演奏を見せることで、歌とはまた違う“憧れ”が子どもたちに芽吹くことを願っています。</p> <p>⑤歌唱指導 ・ここまで腰をおろして聴いていた子どもたちと、ここからは一緒にアクティビティを行います。歌を歌う、または振り付けを共に行い、指導をすることで、自信を持って自己表現をするきっかけを作ります。また、ワークショップで習ったことは、本公演においても改めて発表の機会を持ちます。</p> <p>⑥質問コーナー(60分の場合) ・実際にオペラ歌手の演奏を聴いてみて、実際に感じた疑問や質問を直接演者やスタッフに訊いてもらいます。この時によりやく素の演者の声を聴き、親近感が湧く子どもも多いです。 最後に挨拶をして、ワークショップを終えます。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> ◆演奏者はスタッフを含め5～6人です。 ◆ピアノを使用します。 ◆実際に本公演を行う体育館での実施を希望します。 ◆WS開始前に先生にご紹介いただき、最後には体育館退出の指示を出していただきます。 ◆C区分の場合は、WSの日程を設けられない可能性が高いため、本公演の前の時間に実施可能です。 		

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名

堺シティオペラ 一般社団法人

】

①本事業に対する取り組み姿勢

日常生活の中でオペラ等の生の芸術に触れる機会の少ない中、学校でオペラを鑑賞できる機会は、とても良い体験となります。しかし、鑑賞するだけの公演ではオペラの本質を十分に伝えきる事はできません。この巡回公演ではワークショップや公演を通して、児童・生徒の皆さんが積極的に芸術体験に関わることができ、総合芸術としてだけでなく、キャリア教育を基本とする人間力育成としてのオペラカンパニーの姿を発信していきたいと考えております。オペラは高尚な芸術として先入観を持たれ、敷居が高いと思われがちですが、芸術教育は児童・生徒の人間力を育成するために必要不可欠であり、そして、そこで培う豊かな感性こそ、未来の世界を切り開く上で望まれている事であると啓発していく所存です。

また、コロナ禍により、ワークスタイルやライフスタイルなどがインターネットの活用などによってデジタル化されてきています。しかし、人間の情操教育は人々が集まり、同じものを観て、違うものを感じて、その差異を共有してこそ、お互いの理解が生まれると信じています。この公演を通して、同じ場所で同じものを観て、その経験を語り合い、その結果このデジタル化されていく世の中では学べない、人間としての大切な感情を育てて行きたいと考えております。

数ある公演の中でも、子どもたちに初めての本物のオペラとの出会いを届ける本事業こそ、これからの日本における芸術文化の未来にとって、最も重要であると考えています。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

沢山の公演を経験してきている関西の中堅歌手、堺シティオペラの子どもたちのためのオペラプログラムを担当している若手歌手、海外で音楽活動をしている音楽スタッフをバランス良く配置する事により、全ての分野に於いてクオリティーの高い結果を提示できるようにしています。

本番では舞台スタッフを用意する事により、限られた条件を最大に活かしての演奏効果が臨める舞台を作ることができ、子どもたちが安心して公演を楽しめるよう配慮しています。舞台については、A区分と比較すると少し簡略化はされるものの、ハリボテの舞台装置ではなく、プロの舞台・照明チームと力を合わせて、各学校の体育館がいつもの体育館とは異なる空間になるように心がけることにより、子どもたちの集中力もより高めるようにしています。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

別添	なし
----	----

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人】

C区分で事業を実施するに当たっての工夫	<p>①離島・へき地等における公演実績 雪の時期に青森での公演を行った際には、トラックが自走しての現地入りは不可能であるという判断をし、舞台道具全てをクロネコヤマトのチャーター便を用いて輸送した経験があります。遠方という意味では、大阪から青森や長崎へ赴いての公演も行っております。また、特別支援学校におきまして、学校と病院・施設が同地にある場合、ストレッチャーでの鑑賞やライブ中継を行って病室にライブ配信を行うという公演も実施しました。</p> <p>②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫 まずは移動手段として、中型のバスではなく、小回りの利く乗用車を用います。舞台道具の運搬車についても、2tトラックでの搬入が難しいとのことであればハイエースを用いることで、特殊な事情のある地域での公演も可能になっています。また、公演自体のクオリティを保つための工夫として、小規模の舞台セット、少人数での演奏でありながらも、一人一人が関西や日本を代表するレベルの歌手を起用します。また、聴衆との距離の近さを活かします。演者と聴衆との相互交流を生み、集中力を途切れさせ上演を目指し、公演演目の選択は、舞台装置が簡素にできる作品を吟味しての選曲です。例えば舞台設定として日常的な家具や衣装を使用できる作品を上演することで、地理的な条件で舞台芸術に接することが少ない児童・生徒の皆さんにも楽しくて豊かなオペラの芸術鑑賞を可能にしています。</p> <p>③C区分応募における、費用面の工夫 C区分での応募に値するよう、舞台装置や衣装など特別なものを準備せず、また公演の規模を縮小させず上演が可能な作品を選曲しています。また、出演者の少ないオペラ作品を選曲することで、人件費を節減しています。奏者のみならずスタッフの人数も減らせるため、旅費としてかかる費用も節減に繋がり、なおかつ質の高い奏者を準備します。ワークショップについては、より深く理解するために、児童や学生のオペラ参加を希望される場合は現場の状態を入念に、事前に確認します。上演への参加希望のない場合は、本番前のレクチャーでワークショップの旅費を削減することも考慮できます。出演者の少ない作品ゆえに、ピアノと指揮を同時にできることが望ましいと考えます。ピアノの移動ができない場合は、電子ピアノを使用する場合があります。(その際には、ピアノを持ち込ませていただきます。)</p>
---------------------	---